

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	地震・土砂災害等の各種防災各種マニュアルは適宜、更新・見直しを行っている。災害は増える一方で、さらに私たち職員が意識を高めていく必要がある。(大雨による土砂災害や台風・大雪・地震など) 又、近所に住んでいる家族さんと一緒に防災訓練を実施した。地域の方の関心が高く、訓練に積極的に参加して頂いた。新型コロナウイルス感染症の流行が止まる事がなく、感染対策を続けている。感染防止の対策はもちろんであるが、感染者が出た場合のシミュレーション・訓練の実施が日頃から必要である。	実体に合った防災訓練の実施	①マニュアルは、今後も適宜更新を行う。 ②訓練は年2回以上実施し、地域の方や家族への呼びかけを行っていく。 ③防災委員を中心とし、新人職員に伝えていく。 ④備蓄品の更新。 ⑤感染症委員会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策・入った場合のシミュレーションを継続していく。	6ヶ月
2	7	今行っているケアが正しいのかどうか、意見を言い合う職員の関係が必要。認知症ケアについての知識不足が不適切ケアとなり、さらに見て見ぬふりが身体拘束や虐待につながるリスクとなってしまう。利用者本位となり、職員間での指導が出来るような役割も必要である。又、気持ちよく利用者様が過ごして頂く生活の場であり、その方に応じた安心できる声かけや関わり方が大切である。	スピーチロック 身体拘束(行動抑制)虐待の防止	職員がお互いに注意し合う。利用者様に挨拶や声かけを行い、気持ちよく過ごして頂く。認知症ケアや介護技術などの研修参加や、職員同士で正しいケアが出来ているか、確認を行っていく。職員側から見た「利用者様の困った行動」は不安のサインであり、どのように支えていくのが良いのか、話し合っていく。指導する側の職員も日々学んでいき、利用者様の代弁者となり、職員に伝えていけるよう努めていく。自己評価を実施していく。	6ヶ月
3	23	新型コロナウイルス感染防止のため外出は控えている。行動制限が強いられる中、利用者様のストレスの大きさを感じる日々である。感染防止しながらの施設内での活動を開催し、楽しんで頂くように関わりを行っているが、実際の本人の思いが何であるか、会話や表情からの気づきが少ない。認知症で自身の思いを伝えられない方に対してもっと理解していく必要がある。ご本人と、そしてご家族の思いを受け止めていき、より会話や日常の関わりが必要である。	一人ひとりの思いや夢への実現に取り組む	気づきの情報の共有。申し送りをを行い、職員間で情報を共有する。利用者様との会話の時間を増やしていく。言葉の中や表情から思いを理解し、実現に近づけるよう取り組んでいく。もし、いつもと違った様子(異変)があれば、早期対応を行っていく。ご本人、そしてご家族との会話を大切にしていく。	12ヶ月
4	2	地域の方からはどんな施設なのか、年数を重ねるごとに理解して頂けている。近隣の利用者様も増えてきている。コロナ禍だからこそのイベントを実施することもできた。今後も気軽に相談してもらえるような窓口として努めていく。	地域の相談窓口としての役割をはたす 地域の方に気軽によつてもらえる施設となる	近所の方への挨拶を行い、職員は住民の一員であることを自覚していく。近所の方が困ったことあれば気軽に相談を行っていく。新型コロナウイルス感染症対策した上で、地域活動を実施していく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。